GIVEをシェアするまちづくり

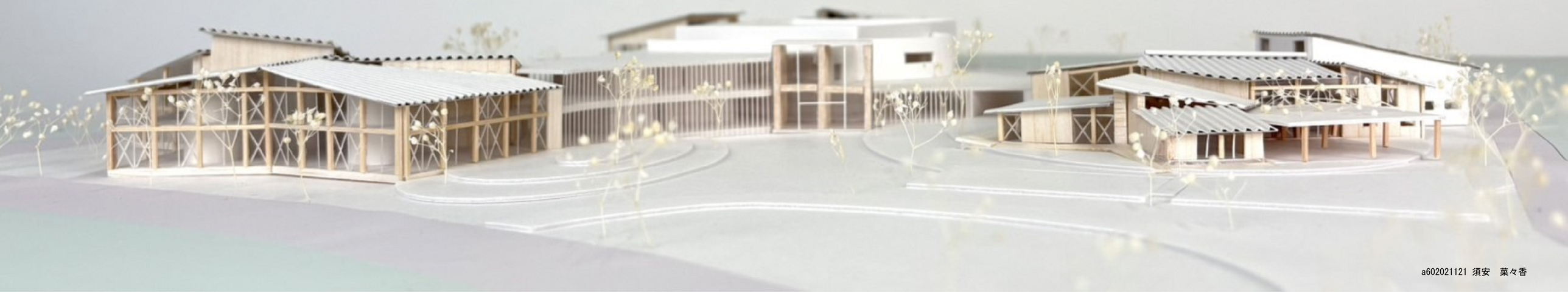
～庄原市高野町における持続可能な山村留学施設～

背景・コンセプト

近年の田舎地域での、過疎化・少子高齢化・地域経済の縮小が
社会問題となっている　そこで庄原市高野町における自然と地域住民の生活に
寄り添った持続可能なまちづくりを実現するための施設を提案する
そして、同じ社会問題を抱える他地域の解決策のひとつとなるような
モデル施設を目指す

町・人・仕事の持続化

町	人	仕事
伝承・環境維持 愛着を持ってもらう **地域に馴染んだ空間づくり**	継続的に 人が入れ替わる **子供の留学施設**	雇用を 持続的に生み出す **教育機関 リモートワーク**



a602021121 須安　菜々香

計画敷地

広島県庄原市高野町新市
・庄原市立図書館　高野分館
・庄原市役所　高野山村開発センター

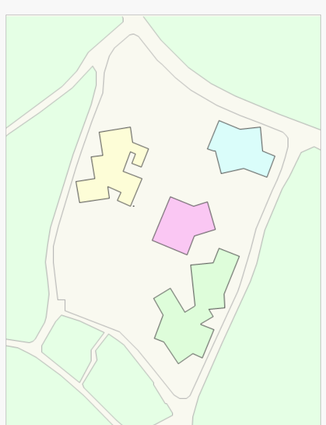
周辺には小学校・中学校・スポーツ広場・プール
保育所があり計画敷地として適している



◁ 現在の
山村開発センター

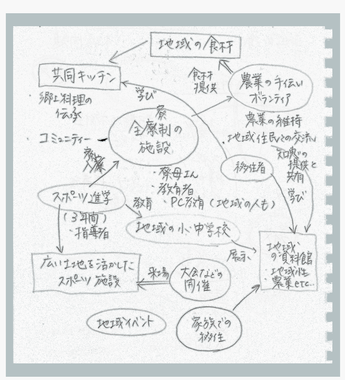


周辺地図

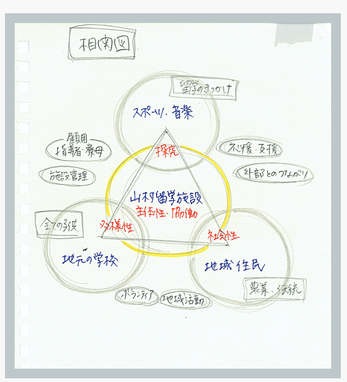


配置図

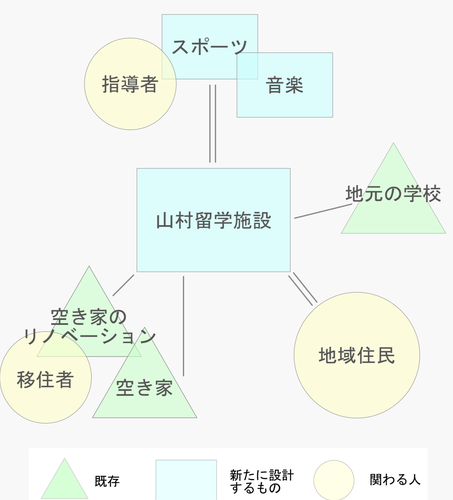
相関図



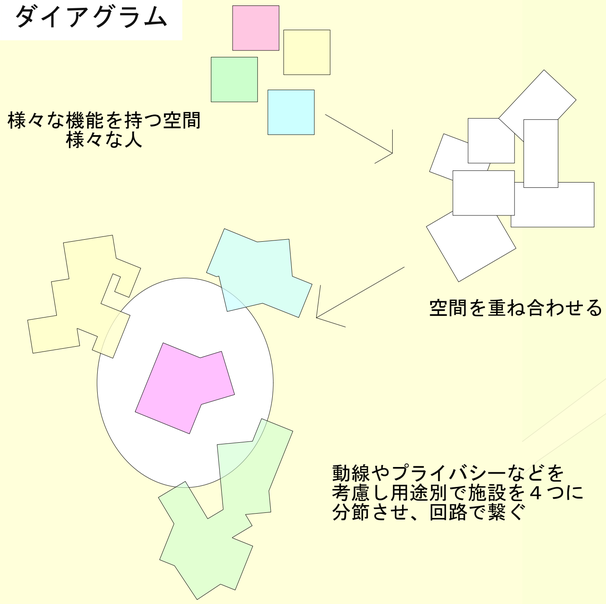
第一構想



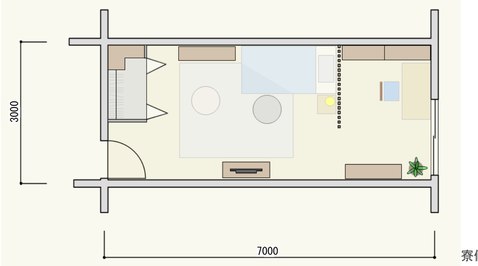
第二構想



ダイアグラム



小さな四角を複数重ね合わせたような平面計画と、それぞれに
屋根をかけることで、周りの民家に寄り添うスケールとなり
風景に溶け込むような建築となる



寮個室　平面図

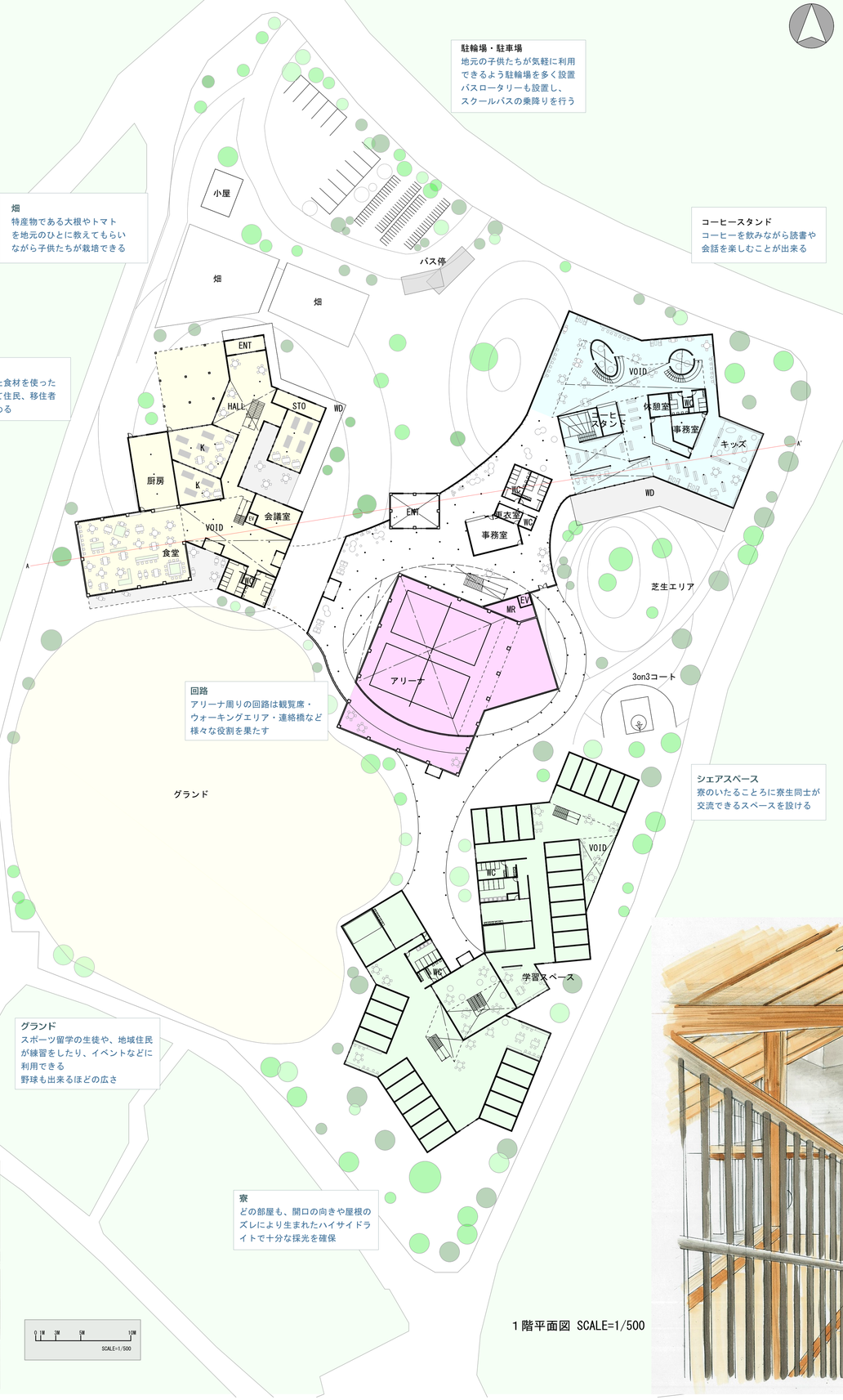


寮　北側

ひだ状の平面計画ににすることで、外部の自然や光、風をすべての
シェアスペースに取り込むことができ、町の自然と寮生の生活が
プライバシーを保ちつつ交わる







1階平面図 SCALE=1/500



寮　写真

回路による寮へのアプローチは、人の流れを自然と内部に引き込むような動線計画を行った

屋外の渡り廊下で繋ぐことで、生活の中で外部との繋がりが常に生まれるように計画した

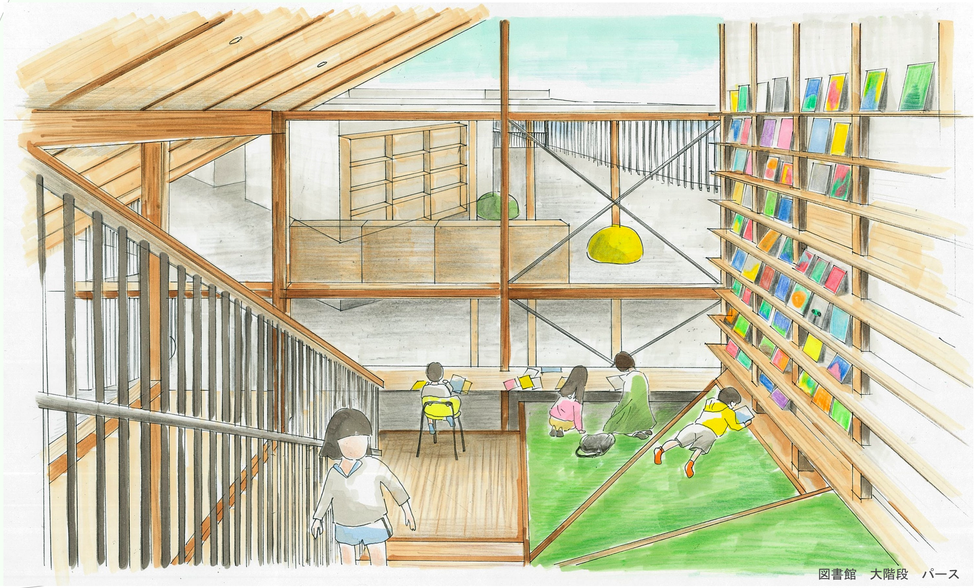


大階段　模型写真



螺旋階段イメージ　模型写真

図書館は窓が多く子供たちが気軽に入ってこられるような空間、多様な居場所をもち、さまざまな子供たちを受け入れられる居心地の良い空間を目指した　　螺旋階段と大階段は踏面を大きく設け好きな場所で好きな体勢で読書が出来る空間を作った



図書館　大階段　パース

a602021121 須安　菜々香



学習スペース　パース

寮内に複数配置している学習スペースでは、寮生の学習と交流を促す屋根面のズレにより生まれたハイサイドライトにより、明るい空間が生まれた

敷地の南側には広々としたグランドは、食堂・アリーナ・寮で取り囲みどこからでも気配を感じられるように配置した

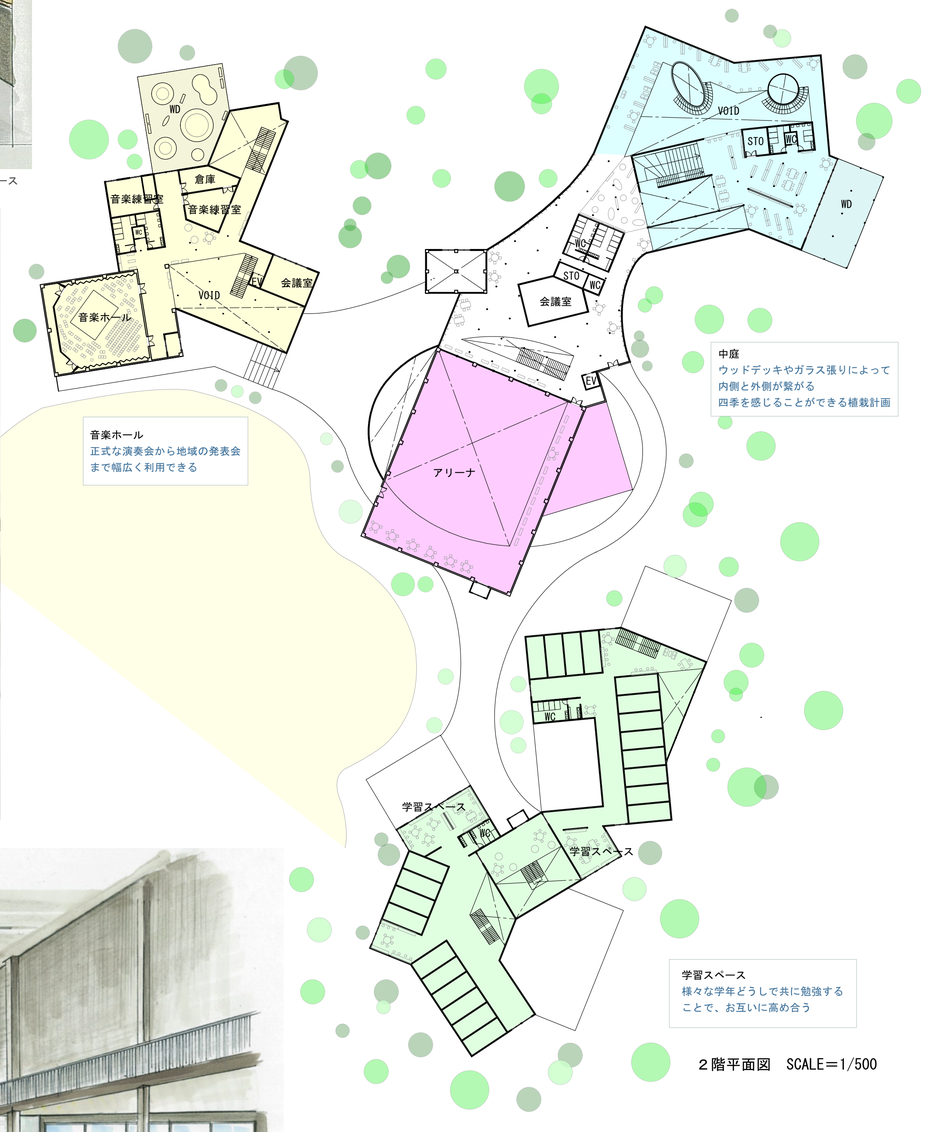
スポーツ留学の寮生が利用するのはもちろん、地域交流の場としても気軽に利用することができる



グランド　写真



芝生エリア

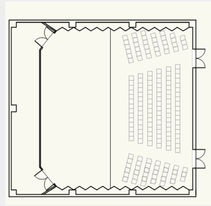


２階平面図　SCALE＝1/500

アリーナ形態

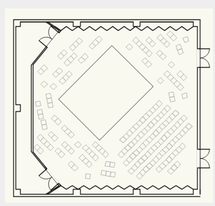
音楽留学生の発表会や地域の演奏会、学校の文化祭まで幅広く使用する

基本的なアリーナ型だけではなく、形態を自由に変化させ、気軽に使うこともできる雰囲気の空間とした



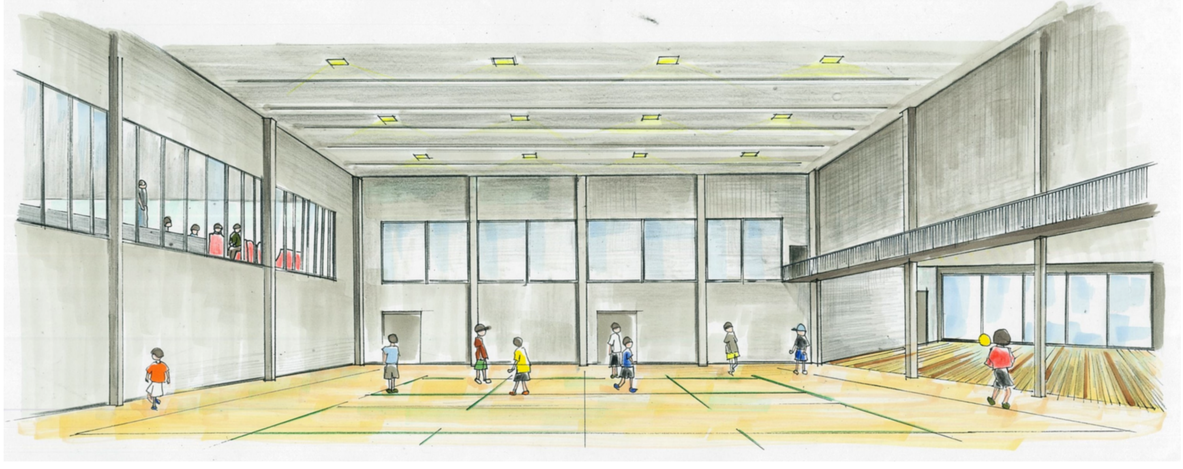
シューボックス型

フォーマルな演奏会や
学校の講演会での利用

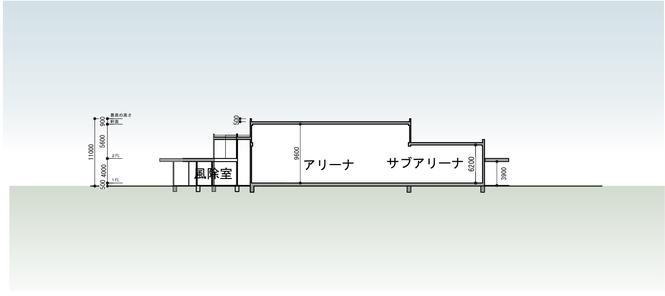


アリーナ・ヴィンヤード型

ラフな演奏会や
発表会での利用



観覧席をアリーナ内部に設けず、ガラス越しに回路から見えるようにすることで、散歩や軽い運動をしている人が気軽に観覧することができる

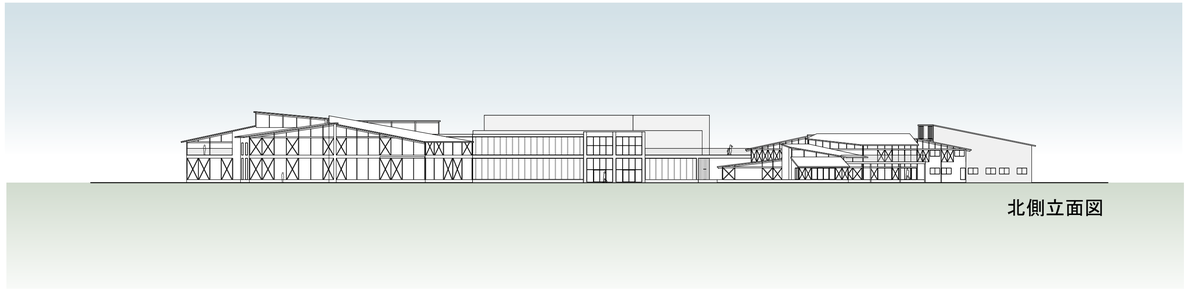


アリーナ断面図

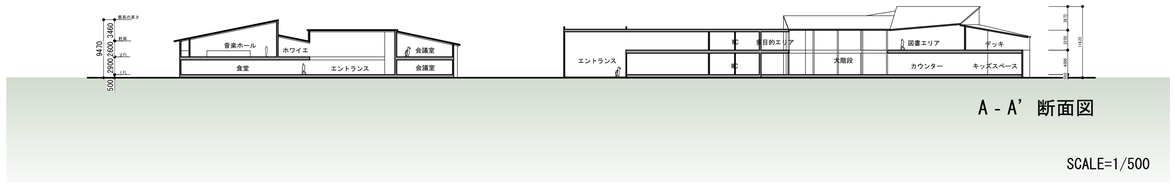
アリーナは地域交流の場として利用され、サブアリーナと繋げることで多目的に活用することが出来る

〈天井高〉アリーナ　9.6m　サブアリーナ　6.2m

a602021121 須安　菜々香

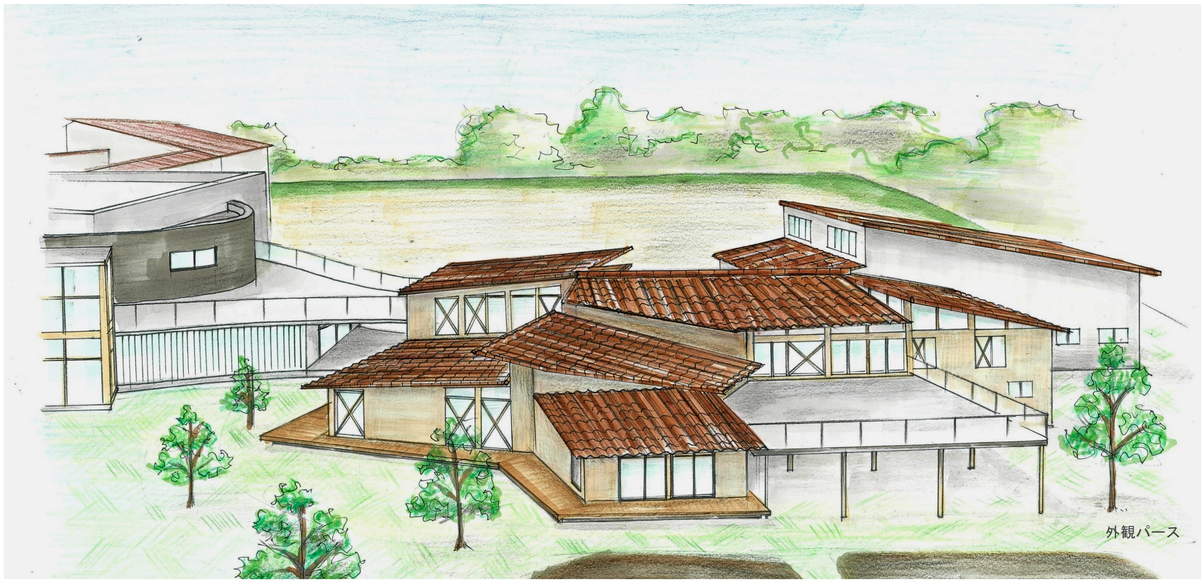


北側立面図



A - A’ 断面図

SCALE=1/500



外観パース

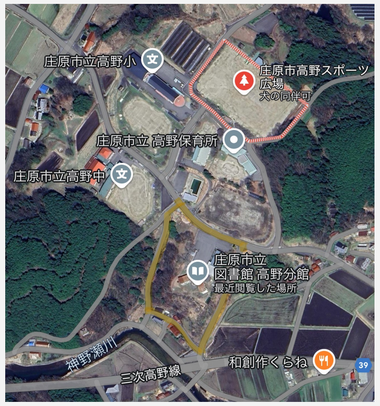


模型写真

スポーツ施設の改修

庄原市高野スポーツ広場

現在は少年野球の練習や、広島県雪合戦大会などに利用されているが、更衣室やトイレなどの設備が整っていない。また、観覧席がないので改修と設備の追加を行う



Google Map 周辺地図

空き家のリノベーション

既存の梁や柱は残しつつ、高い段差などをなくしユニバーサルデザインを取り入れる



祖父宅のリフォーム例 ▷



石州瓦について

広島県県北では、「石州瓦」という光沢のあり赤褐色の瓦が多く見られ、耐久性が高く凍害や塩害に強いのが特徴

耐寒性にも優れており、積雪の重みにも耐えられるため寒冷地に適している

製法　1200度を超す温度で焼き上げる
⇒独特の美しい赤い色・高温による高品質

デメリット　重量がある
初期費用が高価
→その分寿命が長く50～100年
（瓦の寿命　通常30～50年）

石州瓦の歴史

現在日本三大産地の一つに数えられ、生産シェア第2位

江戸時代の初期に島根県西部の石見藩の城・浜田城天守閣に葺かれたことが始まり

原料の来待石は珍重されており、江戸時代には御止石（おとめいし）として、松江藩の許可なしでは販売できなかった

原料　島根県西部で採れる良質な粘土
松江特産の来待石からつくる
釉薬（ゆうやく）



石州瓦の住宅が集まった地域の写真



石州瓦の住宅の写真



Google Map 周辺地図

実現に向けて

単身で入寮する人だけでなく、家族での移住者も受け入れられるようにする

→空き家のリノベーション

大会や練習試合などを通して、スポーツ留学についての認知をより高める

→スポーツ施設の改築

a602021121 須安　菜々香